絶対に許さん！反逆する俺（仮）

dario

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
絶対に許さん！反逆する俺（仮）

【Ｎコード】
Ｎ６９０５Ｊ

【作者名】
ｄａｒｉｏ

【あらすじ】
口癖が「神つかえねぇな、堕神のいない世界に生まれたかったぜ」という不幸体質主人公。ひょんなことで神を怒らせて地獄にたたき落とされ復讐を決めた少年のお話です。

プロローグ　神め！絶対に許さん！！（前書き）

初投稿ものです。
この作品は作者がふとした思いつきで書いた自己満足ものです。原作ブレイク予定ですが気に入らない方もいると思います、そういった方は読むのはお勧めしません。
作品の更新は不定期になると思いますが暇つぶしにでも読んでください。

プロローグ　神め！絶対に許さん！！

プロローグ

あれ、さっきまでバイクに乗ってたんだけど？

『ここはどこだ？』

見渡すと辺りは真っ白・・・

『そうか、夢なんだな夢に違いない。きっと覚醒夢とかそういうのだろ』

「何をいっとる、お主はついさっき死んだばかりじゃろ？」

コイツ何いってんだ？現に今、俺は生きてるじゃん。

「違うわい、お主の魂を一時的にここに連れてきただけじゃ、その証拠に自分の名前をいってみなさい。

不思議そうな顔をするな、ワシは地球を管理する神じゃから考えを読むことなど造作無いわ」

このオッサンそうとうキてるようだな。こんなところにいるんだから頭もいっちゃってるのだろう。

「だから聞こえとるといっとじゃろ！！ワシのことはいいから名乗ってみろ」

『・・・だ！』

あれ？なんで喋れないんだ・・生まれてからずっと呼ばれてきた名だ。なぜだ・・・

「それが死んだということじゃ、お主の体と魂はもう地球上から消えてしまった。故に繋がりがなくなったので名乗ることはできぬ」

どこかすまなそうな顔で話している。

そうか一人の人間が死んでしまったことにこの神様はそんな心を痛めてくれるのか・・「お主が死んだのはワシのせいじゃからな～」

『おいっ！まて！なんかおかしなことが聞こえたんだが？』

「じゃから、お主が死んだのはワシのせいじゃ。本当はお主はまだ死ぬ予定ではなかったんじゃが、間違ってお主を殺してしまった。すまぬのぉ」

『すまんだと！！謝って済む問題じゃねーよ！どう責任とってくれるんだ！！』

と神につかみかかる俺。

「まあ、まてお主に非はないのはわかっとる。お主の日ごろの行いは・・・」

スクリーンを出現させ映像を見始める。

「うむ、とても素晴らしいな。お主はここまで善行を積んでおったか。やや性格に問題があるが、まあたいして問題はなさそうじゃのう」

うむうむと肯きながら俺を褒める神様。

『まあな、当然だろ』得意げに胸を張ってる俺。

「ほぉほぉ・・・ん？これはなんじゃ！」

何やら機嫌が悪くなってきているぞ。別に問題ないんだろ！

『おい、突然どうしたんだ！』

「うむ・・気が変わった。お主は地獄へ落ちるがいい」

『はっ！？なんでだよ！！問題ないのじゃないのか！』

「お主の行いはここ何百年、稀にみるほどいいものじゃ・・・じゃがのう・・・」

まさかな？あれか！あれなのか！！

「お主は日常から常日頃、ワシの悪口を言っておったな！！なんじゃ、口癖が（神つかえねぇな、堕神のいない世界に生まれたかったぜ）じゃと！」

ふざけんな、どんだけ心の狭い神だ！！それくらいのことでキレんなよ。額に青筋浮かべるのは俺の役目だろ！

『おい！こっちは殺されたんだぞ。それくらいのことは目をつむれよ！「うむ・・そうじゃな・・目をつむ」神つかえねぇな、堕神のいない世界に生まれたかったぜ』

しまった口癖なんだ。つい口が滑っちまった・・・

「ふぉふぉふぉ（すごい笑顔）お主の望みを叶えるとしよう、お主のいっとる堕神のいない世界じゃ

『おい神様！ちょっ、早まらないでください！！』ＧＯ★ＴＯ★ＨＥＬＬ★」

なんだよその星！！つーか★つけんな！！

足もとに穴が空き落ちていく俺、そして意識を失った・・・・

ｓｉｄｅ　堕神

あの人間を地獄に突き落とした後・・・

なんとも愚かな人間じゃ、神の前でをあそこまで堂々とした態度と

るものはそうおらんわ。

さすがに何もしないであそこに突き落とすのは可愛そうじゃからサービスしてやったわい！

ここでの記憶は消しておいたがのぉ。代わりにワシへの信仰心を植えて付けておいたわ。

あの愚かな人の子があそこで生き残れるかのぅ、ふぉふぉふぉっ！

さて・・・暇じゃからお気に入りの漫画やラノベでも読むとするかのぉ。

「〇〇はワシのよめぇぇぇ～！！」

（注）さっきの少年のことは忘れました。

プロローグ　神め！絶対に許さん！！（後書き）

オリ主地獄へ落されました。

次回　俺、神様ちょー大好きなんだ！

オリ主名前どうしよう…

第一話　地獄にて神最高〜！！（前書き）

さっそくオリキャラ登場。主人公の今後を大きく左右する出会いになります。

第一話　地獄にて神最高～！！

ｓｉｄｅ？？？

とある神殿内

「暇じゃ～、暇つぶしにまた天界へ攻め込もうかの～」

キングサイズの天蓋付きのベッドでゴロゴロしながら何やら恐ろしげなことをいう見た目１４歳くらいの小さな女の子。

「クロメディ様、どうかあまり無理を仰らないでください！」

と傍に控えていたメイドがまたいつものがはじまったと溜息をつきながら懇願する。

「よいではないか。あの爺にわらわは散々苦渋を味わされてきたのじゃ。

ここに閉じ込められてわらわは数えるのも気が遠くなるほどの年月をここで過ごしてきたのじゃ、いい加減ここから出たいのじゃ！！」

と駄々をこね始める。

「いけません！いくらクロメディ様といえど力を封印されてしまってはあの爺には勝てません。どうかご辛抱してください」

「しかしじゃの～、わらわ『ゴゴゴォー！』なな・・なんじゃ・・ん？」

天界から何か来たようじゃな。

「ふむ、なにやらおかしな奴が来たみたいだのう。神の奴の差し金か？」

どれ？様子を見に行くのもまた一興じゃな、天使だったらまた遊んでやるとしようかの。

「なあ、ヲルよ？ちっとばかしここを留守にするがいいかのう」

「いけませ「だめかのぅ・・・・」っ！！」

上目使いでヲルを見上げる。

「っつ！！／／／クロメディ様・・お気をつけてください／／／はぁはぁ」

真っ赤な顔になりながら主を送り出すヲル。呼吸が荒くなっとるぞ！！

「うむ、では行ってくるぞ、はっはっは！」

楽しそうに笑いながら外へと出て行く。

side　out　クロメディ

背景、お父さん、お母さん、どうやら俺は地獄に落ちたようです。

ん？なんで地獄かって？決まってるだろ。

見渡す限りの荒野に血だらけの人、なんか触手が体から生えてる人もいるぞ！バ〇オ・ハザードか！

これはあれか！ゾンビとかいうやつなのか・・・初めて見たぜ！

っ！なんか目があったよ。じっと見つめるな、気持ち悪いんだよ！！

「あｂｈｄぁｓｈｃｓんｆｌｈがー」

うむ・・・ほおほお・・・こう言いたいのか？

『え～と…それじゃ、また明日？』

「がｄんｋｊｄｆｂｋぁじぇｒｙりあｈだｄｂｋ～！！」

やっぱ違ったよ！！なんか集まってきてますよ。これヤバいよね。

捕まったら仲間入りとか？それは洒落にならん！

とりあえず……に・げ・よ・う！！

『ぎゃぁーーーーーーー！！こっち来るなぁ～～～！！』

ひたすら荒野を駆け巡る。

なんかいつもより体が軽い気がするな。俺こんなに体力なかったはずだぞ。

まあ、おかげで追いつかれないからよしとしよう！！

そろそろ振り切っただろうか？

チラッ・・な・・ななんか・・す・・すごいことになっとる！！

『なんで振り切れないんだよー、チクショー！！俺様モテモテじゃねーか、ていうか数増えすぎだ～！！』

まあ、まだまだ全然余裕だしこのまま逃げきれるかも・・「ガッ！」

ぐふっ！

やっちまったぜ、お約束だよ。ここぞという時に石に躓いて転ぶなんて俺らしいじゃねーか！

『痛え～・・・・っつ！足ベジータぁーー！！・・・・じゃない！足挫いたぁー！！』

おいおいテンぱってるぜ俺？

ああぁ、敬愛する神よ。あなたはこんなにもきつい試練を俺に課すのですね。どうか主のお導きを！！

呆然としてたら囲まれてしまった・・・

……はい、詰んだ♪はやくも俺終了のお知らせが聞こえるぞ♪

「なんじゃ情けないのぅ、お主は神がここに遣わしたものじゃろ。死鬼くらい軽くあしらえる筈じゃろ？」

上から声が聞こえる。

『なに！幼女が飛んでる！！俺は夢を見ているのか！？』

「誰が幼女じゃ！！わらわは年など軽く１０００を超えてるわ！それよりお主はそんなこと言ってる場合か？」

『あー！あー！あー！聞こえない聞こえない！神よ善良なる俺をどうかお助けください』

こいつと話すくらいなら、最後の瞬間まで神に祈っててやる！なぜかって？神好きだからさ。

「お主というやつは～！！せっかく助けてやろうと思ったのじゃが（ボソ・・・・」

むむっ！なに！！慌てて手を組んで祈るような格好で話しかける。

『おおぉ、あなたは神のお使いなのですね！どうか地獄に迷い込んでしまった哀れで一般市民な俺をお助けください。』

俺は神に関する者は全て敬愛してるんだ。神最高！！愛してるぜー！

「違うわい！それを言うならお主の方じゃろ？お主からは神の気配が半分するぞ。妙な奴じゃの」

訝しげな顔で俺を見てる軽く１０００歳を超えているらしい神のお使い（仮）様。

『？？？』

何を言ってんだ？神の気配？半分？

「まあよい、助けてやろう。そこでじっとしておれ」

そういって右手を天にかざす。

「”地壊”煉獄”」

ゴゴゴゴゴゴッ！ゴォォーーーーー！！

周りにいた死鬼たちが地割れに巻き込まれ、そこから噴き出した炎によって一瞬で焼き尽くされる。

『うぉぉーー、なんだ！！す・・すげー』

気を抜いたせいか、なんでもありだなと思いながら焼き尽くされた死鬼を見ながら意識を失った。

第一話　地獄にて神最高〜！！（後書き）

次回　クロメディの正体と主人公の名前が明らかに。

そして芽生えるあいつへの殺意（笑）

第二話　サメルユメ、メバエルオモイ（前書き）

えーと、いつの間にか６０００アクセスって（笑）
このような駄文を読んでくださる方ありがとうございます。
ちまちま更新していきたいと思いますのでこれからもよろしくお願いします。

第二話　サメルユメ、メバエルオモイ

ｓｉｄｅ　クロメディ

暇つぶしに出てみたら、少年が死鬼に追いかけられていた。

どれ、あ奴の存在を見極めてみるかのぅ。

害があるようならこの場で葬ってやろう。

なかなかの身のこなしじゃのう。あ奴の身体能力はそれなりに高いようじゃ、動きは素人の様じゃがな。感心しながら見ていた。

見た目も悪くないのぉ。顔立ちも整ってて若干女顔じゃが，かっこいいのぉ／／／

む？黒い髪に金と黒のオッドアイじゃとっ！？片方じゃが、神と同じ目の色をしておる。それに魂の質がかなりおかしい。

やはりこ奴は神の使徒か？いや、それだとしてもおかしい。神の使徒といえばあの程度の奴らなど一瞬で殲滅する程の力を持っている。

うむ・・・「変な奴じゃな！」と一人頷く。

クロメディが思考に耽っていたら。

「コテっ！」おっ！・・・・少年がこけたのぉ。

何か叫んで落ちこんどるようじゃ。

死鬼が四方から集まってくる。

まだ距離はあるが…ふむ、囲まれたな。

地獄では死鬼は最弱の生き物じゃが、やたらと数が多い。

やはり使徒ではないのかのぅ。

なぜじゃって？それはじゃ！・・・ここまで情けない使徒は見たことがないからのぅ。

そうと決めたら、あ奴をあのまま放っておくのは可哀そうじゃ

こののま見捨ててしまっては寝ざめが悪いしのぉ、どれ助けてやるかの。あの少年は何か引っかかる。

それに・・・・かっこいいしのぉ／／／／

（＊）死鬼を掃除後・・・・・

「ふむ、こんなものか。準備運動にもならぬわ」

しかしここまで死鬼が集まるとは珍しいのう。

まぁ、今はそこまで気にしなくともよいかの。

それよりも、こ奴は神をやたらと崇拝してるようじゃが・・・これで地獄に落とされるとはどうも腑に落ちぬ。

この半分感じる神の気配も気になる。

あの爺は一体何を考えて自分の信者を地獄へ落したのじゃ？わらわへの何かの策か？

じゃが、わらわが助けなかったら死鬼の餌食になってたじゃろうしのぉ。

さて詳しく話を聞かせてもらうかのぅ。

振り返って声をかけようとすると少年は気絶していた。

ｓｉｄｅ　ｏｕｔ　クロメディ

目を開けるとそこは知らない天井が見えた。

『知らない天井だ』

声に出して呟く俺。

「当り前じゃ！ここはわらわの家なんじゃから知ってる方がおかしいわ！」

おお！反応があった。体を起こして周りを見るとさっきの子がいた。色白で漆黒の腰まで届く長い髪と赤い瞳が特徴的なかわいい女の子だ。あと数年もすればますます綺麗になるだろう。

おまけに胸はペッタンコときている。なんとう逸材だ。

『えーと？・・・』いきなりのことに戸惑う俺。

「わらわの名はクロメディじゃ。お主が死鬼に追われてて、助けたらお主は気絶しおったんじゃ。
その場に捨て置くのもあれじゃし、し・・仕方なくわらわの家に連れてきてやったんじゃ／／／」

そうなのか。この子はなんて親切な子なんだろう！しかもなんか顔を赤くして照れている。

やヴぁい・・・これは和むぜ。「お・・は・・じゃ？」うんうん、ＧＯＯＤだぜ！

「おいコラ！話をきくのじゃ！」

っは！俺としたことが和んじまった。

『ああ、すまない。少し混乱してた』と嘯いとく俺。

「じゃから主の名前はなんというのじゃ？」

俺の名前は・・・ん？なんだっけ？お、思い出せねぇーー！

『俺の名前はだ！・・・・わからん！』得意げに言う。

「威張って言うことか！・・・仕方ないお主の名前を見てやろう」

『俺の名前を見る？そんなことできるのか？』

どこぞ死神さんですか！！ノートに名前書くお仕事の方じゃないだろうな？

心の中でも突っ込みは忘れない俺。

「うむ、それと名に纏わる意味を知ることもできる。じゃあ見せてもらうぞ、すまんが何も考えずぼーっとしてくれ」

言われた通りにする俺。

「むむ！これは！？・・・・ぷぷぷっ・・・くぅ・・くくく・・・あははは！！」

ねえ、なんでめっちゃ笑ってるの？何が見えたの？めちゃくちゃ不安になるんですけど！！

おい！腹抱えて笑ってんじゃねぇ！！俺の名前なんだろ！？

「あのーー、何が見えたでしょうか？」

感情をできるだけ出さず。声に出して問う俺。俺の沸点にはこれくらいじゃあまだ届かないからな！

「ああ、すまぬ。・・・・ぷっ・・・くくく」

待つこと数分・・・・・

『神名？』

「ああ、お主はどうやら神から名を授かっているらしいのぅ」

『まじで！俺、神様に頂いた名前ならどんなのでも気にしなぜ！』

ただいまテンションＭＡＸな俺。

「そうか・・・・強く生きるのじゃ・・・」可哀そうなものを見る目でいうクロメディ。

『ああ？・・・・・そ・・それで俺の名は？』目を輝かせている。

「グーシャン・テラ・ワロスじゃ」

『そ・・それが俺の頂いた名か！』

感動のためフリーズ中。（神大好きなので特に気にしてない…

『っは！』

「戻っていたようじゃの」

何やら呆れ顔で見つめてくる。

『そういえば、名前を見ることができるなんて・・・・』

何か忘れてるな・・・・・んん！？

『あなた様は！・・・もしや！！？』

そういえばこの子・・・俺の敬愛する神のお使い様だったー！

「うむ、ようやく気づいたか！」

『す・・すいません！！あなたが神のお使い様とはつゆ知らず、ご無礼を！』

慌てて頭と腰を低くする俺。

ふっ！ここまでの低姿勢はそうそうとれないぜ！

「は？お主は何をいっとるんじゃ？ちがうわい！わらわの正体はじゃなぁ・・・」

訝しげな顔から一転、嬉しそうにささやかな胸を張りながら得意げな顔で話そうとする。

違うだと！もしや神の御使いじゃなくて・・・

『神様で「邪神じゃ！！」すか！？』

は？今なんつった？お兄さん耳が遠くてよく聞こえなかったよ。

『すいません、もう一度いいですかね』

「邪神じゃ！」即答された。

『き・・・貴様は神の敵かーーー！』

しっかりと距離をとり離れてから睨みつける俺。

「はぁ、やれやれ」溜息をつきながら疲れた顔で俺を見つめる神の敵＝俺の敵。

「主はどうやら若干洗脳状態にあるみたいじゃから解除してやろう」

パチンと指を鳴らす。

バキバキッ！頭の中で何かが割れる音がした。

「そういえば、お主の神名の意味じゃが・・・・【神を侮辱して地獄に落とされた、とてつもない愚か者（笑）】じゃったのお。ぶっちゃけ、ただの説明書きじゃのう（笑）」

ち・・ちくしょーーー！

「神つかえねぇなぁーーーーー！！堕神のいない世界に生まれたかったーーーー！！」

地獄の中心で神への怨嗟がひびきわたったとさ。

第二話　サメルユメ、メバエルオモイ（後書き）

ここからうまく原作介入に突入させたいと思います。
ギアス→インデックス→レギオス→ネギま→神への報復？
みたいな感じでいけたらいいと思ってます。話長くなりすぎそうだな（笑
次回　反逆への第一歩

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n6905j/

絶対に許さん！反逆する俺（仮）

2010年10月17日03時14分発行